



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



MCN REPORT

2023.9 vol.56



現在の大学の姿を紹介します

contents

新型コロナウイルス感染症 5 類移行後の大学	1
総合科目「三重を知ろう」	2
知的財産の取り組み	3
研究室訪問	4
連携協力協定機関紹介（岡波総合病院）	5
大学の出来事	6

地域との交流を再び

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行という未曾有の事態に直面し、本学においても大きな影響を受けました。教育に関してはオンラインの活用や感染予防策を徹底したうえでの授業・実習の実施など、様々な工夫で学びの継続を確保してきましたが、学生生活においては、課外活動の制限やイベントの規模縮小などを余儀なくされてきました。

令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更されたことを受け、本学においてもこれまでの制限を大きく緩和し、学生が再び地域の方と交流を持つことができるようになりました。今回は、制限緩和後の学内の様子をお届けします。

第25回 夢緑祭

7月9日（日）、本学の学園祭である夢緑祭を開催しました。夢緑祭は例年、たくさんの地域の方にお越しいただき、学生と地域の方々との交流の場でもありましたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により中止やオンラインでの開催となり、対面で実施できた令和4年度も、感染拡大防止のため来場者を学内関係者に限るなど、規模を縮小して実施しました。

今年度は、学内の制限が緩和されたことにより、4年ぶりに地域の方をお迎えすることができました。夢緑祭が一般公開されていた頃を知る在学生がいない中、実行委員の学生を中心に企画立案し、学生有志によるダンスや音楽隊などの舞台発表、謎解きゲームや大縄飛びのギネス記録挑戦など、盛り沢山の内容で準備しました。当日は、予想を上回るたくさんの方々にご来場いただき、好評のうちに実施することができました。

第25回夢緑祭実行委員長 2年生 中嶋泰良さん

第25回夢緑祭に来てくださった教職員、学生の皆さま、そして共に夢緑祭を盛り上げてくれた皆さま、本当にありがとうございました。今年度の夢緑祭は、コロナによる規制が緩和され、4年ぶりの一般公開が実現しました。手探り状態ではありましたが、より良いものにしようと、実行委員会で意見を出し合った結果が、当日の盛り上がりにつながったと思います。今回得た経験や学びを、次年度以降にも活かしていきたいと思います。



みかんだいオープンキャンパス 2023

8月5日（土）、「みかんだいオープンキャンパス 2023」を4年ぶりに人数制限のない対面形式で開催しました。当日は大学紹介や入試説明のほか、学生相談や模擬授業、実際に授業で使用している看護教材を用いた体験などのプログラムを実施しました。参加者からは「三重県立看護大学に入学したい気持ちがより高まった」「学生生活、実習の時期や内容について説明していただき、パンフレットには載っていないことが聞けたのがとてもよかった」などの感想をいただきました。



企画情報担当理事 小池 敦 教授

「みかんだいオープンキャンパス 2023」にご参加いただいた皆さまありがとうございました。コロナ禍の3年間、オンラインでの開催や入場者数の制限など、様々な感染防止対策を余儀なくされましたが、今年は令和元年以来4年ぶりにコロナ禍以前を取り戻す開催となり、高校生や保護者の方など600人を超える方が来学されました。特に、保健師、助産師、看護師の体験ブースや、学生生活に関する質問に本学学生が個別に答えるブースへの関心が高く、活気に満ちた一日となりました。今回のオープンキャンパスをはじめとして、今後も本学の魅力を直接皆さまにお伝えできるよう積極的に発信していきます。



地域に根差した看護職の育成をめざす

令和4年度からスタートした看護学部のカリキュラムでは、地域包括ケア時代に対応できる幅広い視野を持った看護職者を養成するため、地域を知り、そこで生活する人々への理解を深める科目として、総合科目「三重を知ろうⅠ」「三重を知ろうⅡ」を設置しています。

1年生科目「三重を知ろうⅠ」

1年生が履修する本科目は、地域で暮らす人々や、その人々を支える看護活動の現場を知り、看護学を学ぶ基盤を養うことを目的としており、地域実習や病院実習、三重県知事の講話と多様な場で学びます。三重県の特性や地域で暮らす人々の暮らしを知ることで、看護の対象者となる生活者への関心を高めることを期待しています。知事の講話後には、「看護職者として三重県のことを深く理解した上で働きたいと思った」という感想も聞かれました。

●5月30日（火）地域実習

津市一身田寺内町でフィールドワークを行いました。ボランティアガイドの方々の協力のもと、寺内町の歴史や伝統、近隣地域での暮らしを学びました。

協力団体

● 一身田寺内町の館 ● 一身田寺内町ほっとガイド会 ● 高田会館

●6月（2日間）病院実習

施設の見学や、看護師のシャドーイング（影のように離れず付いてまわること）を通して、療養環境や看護活動の実際を知り、看護職者の役割について学びました。

●6月27日（火）一見勝之三重県知事による講話

「魅力あふれる三重の未来」をテーマに、三重県の地政学的な優位性、観光資源や、三重県が抱える課題への取り組みとしての人口減少対策や看護職者への支援体制等のお話をいただきました。



2年生科目「三重を知ろうⅡ（フィールドワーク）」

2年生が履修する本科目は、看護師や保健師が今後ますます地域に活躍の場を見出していくことを踏まえ、三重県で生活する人々の営みや、多様な生活の場を理解するための知識、技術を、フィールドワークを通じた主体的な学習により修得することを目的としています。

初開講となった今年度は、三重県内で地域をつなぐ活動を実践されている12の団体に、学生の研修受入れ先としてご協力をいただきました。5月から7月にかけて行われた研修の実施に当たっては、協力団体とのアポイントメントから研修内容の調整に至るまで、一貫して学生自身が行いました。研修後、各協力団体から学生の様子についてフィードバックを得た結果、すべての団体から好評価をいただきました。また、研修終了後に学生が自主的に協力団体のボランティア活動に参加するなど、課外における主体的な活動が展開されたことも特筆すべき成果です。

7月26日（水）にはフィールドワーク報告会を開催し、地域を支える様々な市民活動でどのような学びを得たのかを共有しました。

協力団体

● NPO 法人愛伝舎 ● 特定非営利活動法人 世界 SHIEN こども学校のびすく ● 臨床美術活動施設 ろこアート造形・絵画教室 ● 特定非営利活動法人 市民社会研究所 ● どーどい ● 一般社団法人 地域連携ネットワークみえ ● 認定非営利法人ときわ会 藍ちゃんの家 ● 多気の郷元気づくり協議会 ● 津市森林セラピー基地運営協議会 ● ミツマタを活かした地域づくり協議会 ● 魚と子どものネットワーク ● 一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会





知的財産の取り組み

特許の取得

本学では、平成 25 年から看護系大学による知的財産創出ネットワーク事業に参加し、看護に特化した知的財産の創出や利用について独立行政法人工業所有権情報・研修館の指導を受けながら、積極的に知的財産となり得る題の発掘、さらにそれらの応用研究に従事してきました。令和 5 年度は、8 月現在で 2 件の特許を取得するに至り、保有特許の製品化、事業化に向けたビジネスモデルの構築等に取り組んでいます。

本学は、看護現場にあるさまざまな問題をものづくりで解決し、知的財産として保護する取り組みを行っていますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。

足浴用容器 (特許第 7276889 号 特許年月日：令和 5 年 5 月 10 日)

発明者 齋藤 真、長谷川 智之
協力者 三重化学工業株式会社、独立行政法人工業所有権情報・研修館
発明の概要 ベッド上で臥床している患者の足を看護師（術者）が洗うための用具



発明者から（生体情報学 齋藤 真 教授）

今回特許を取得した「足浴用容器」は、令和 3 年に手浴用を開発し特許を取得した「部分浴容器」を足浴用に改良したものです。これらの知的財産の開発は、いずれも看護現場において看護師が不便を感じながらも、患者のために創意工夫をしてきた経験談に基づいて開発を進めてきたものです。試作品は市販のビニール袋をベースに圧着機を用いて加工しました。特に洗浄の効果は、ゼミの学生に手伝ってもらいながら実験を繰り返しました。特に考慮した点は、看護師の動作のしやすさや患者の快適感など、UD（ユニバーサルデザイン）や UX（ユーザエクスペリエンス）に基づいた人間工学的設計思想を取り入れたところです。試作品は水が漏れてくるなど失敗も多く、手浴よりも大量の水を入れるために形状を安定させるための工夫が大変でした。

装着型点滴シミュレータ (特許第 7288532 号 特許年月日：令和 5 年 5 月 30 日)

発明者 玉田 章
発明の概要 看護学の学内演習等での点滴管理を学ぶ際に、短時間に学生等を実際の点滴留置患者に近い状態とする装着型シミュレータ



発明者から（成人急性期看護学 玉田 章 教授）

入院する患者さんの多くは、治療として点滴静脈内注射（いわゆる点滴）が腕に施されます。これまでの学内演習などで点滴をされた患者さんの再現には、腕に吸水パットを巻いて、静脈留置針をパットに内に挿入して絆創膏で固定していました。このため、実際の点滴とは見た目が大きく異なり、吸水パットを巻いた状態での寝衣の交換は不可能でした。さらに点滴は、薬液ボトルの高さが低くなると滴下されなくなり、場合によっては血液が逆流します。このような薬液ボトルの取り扱いによる滴下流量の変化は再現できていませんでした。今回の発明「装着型点滴シミュレータ」ではこれらの課題を一掃しました。

今後、本発明が商品化されれば全国の看護師等学校養成所のみならず、介護職などを養成する教育機関における活用も期待されます。

これまでの特許権取得実績

- 「心肺蘇生用足趾支持台」（特許第 6634969 号、特許年月日：令和元年 12 月 27 日）
発明者 齋藤 真、長谷川 智之
- 「部分浴用容器」（特許第 6993364 号、特許年月日：令和 3 年 12 月 13 日）
発明者 齋藤 真、長谷川 智之
- 「装着型シミュレータ」（特許第 7011857 号、特許年月日：令和 4 年 1 月 19 日）
発明者 玉田 章、長谷川 智之、関根 由紀 ほか



精神看護学 長南 幸恵 准教授 にインタビュー

令和5年4月から本学で精神看護学の授業科目を担当している長南幸恵准教授に、精神看護学の学問体系と現在取り組んでいる研究についてお聞きしました。

◎ 精神看護学とは、どのような学問ですか？

精神看護学は、あらゆる年齢や発達段階を対象とし、精神疾患の有無にかかわらず、健康の一つの側面ととらえ、ケアする領域になります。狭義の精神看護では、精神疾患としての硬い医学的理解と患者個々の生育歴、学歴・職歴、家族関係等の社会的側面をも含めた広く柔らかな理解との両面が必要です。精神看護の場は、急性増悪状態にある急性期精神疾患の方をケアするスーパー救急病棟から、地域で生活する慢性期精神疾患の方への在宅療養、さらには治療中断やひきこもり、精神疾患が疑われるものの未治療の方など医療や支援につがっていない方を対象とする包括型地域支援プログラム（ACT）等多岐に渡ります。

◎ どのような研究をされているのでしょうか。

私は、精神障害の中でも発達障害、特に自閉スペクトラム症（以下 ASD）のある方を研究対象にしています。ある時、体を揺らしていた ASD のある子どもに、体をゆする理由を尋ねてみると「とても心地よいから」と予想外の答えが返ってきました。それまで人の感覚体験に違いがあるなど考えたこともなかった私は、ASD のある人には見る、聞く、触る等に特有の感覚世界があるのだと衝撃を受けました。この体験が私の研究の出発点になりました。

まず ASD のある人の感覚とはどういうものなのか、生活にどのような影響があるのかな等を明らかにする参与観察による研究から着手しました。調査当初は、ASD のある人の感覚過敏に見える行動が生活への影響が大きいと想定していましたが、実際は反対の鈍麻に見える行動も多く、別の問題を孕んでいました。鈍麻に見える感覚特性は、他者に気づかれにくい上に、他者には不注意として認識され、対応されていたのでした。次の研究フェーズとして、感覚特性をさらに詳細に規定する必要に迫られました。そこで人や物との関係性において重要な役割を果たす触覚に焦点を当て、環境統制下での研究をすることにしました。ASD のある人の触覚は、基本的な神経学的特性も未知なのです。

◎ 今後、どのように研究を進められますか。

取り組み始めた触覚に関する研究は、新型コロナ感染拡大によって遂行上困難を極めていましたが、ようやく再開できるようになりました。現在、ASD のある思春期の方と同年齢の定型発達の方を対象に、人や物との関係の方向づけに関与する触質感と文字や図形の触視知覚検査を中心とした神経心理学的研究を進めています。今後は、さらに対象年齢を青年期以降に引き上げ、感覚種類も拡大する予定です。

ASD のある人に個別の感覚特性に応じた合理的配慮がなされ、自閉特性を含めた個性を生かした生活が送れるようになる事を願い、今後も研究に取り組んでいきたいと考えています。





連携協力協定機関紹介

社会医療法人畿内会 岡波総合病院

様々なステージで新たな看護を創造したい

令和5年1月1日、寒いながらも天候に恵まれた朝9時より、旧病院から新病院への患者搬送が始まりました。医師や看護師など職員250名を配置、約5kmの道のりをタイムスケジュール通りに完了し、新病院・新老健の再スタートを切りました。

新病院では、人々の健康と幸せのために、『人間としての愛』の精神をもって心からの医療と福祉を提供するという病院の理念を継承するとともに、効率的な業務システムと確かな技術の展開を図っていききたいと考えます。そのため、救急部門設備の強化や、ベッドサイドケアを充実させる機器をいくつか導入しました。それらを駆使した新たな看護の創造やケアの充実を図っていききたいと思います。また、情報やデータを外部化、共通化・標準化することによって、



より良質な医療を実現する医療DX（Digital Transformation）に向けても積極的に取り組んでいます。教育システムは、クリニカルラダーに沿って計画されており、学会や院外研修の参加、資格取得への支援にも力を入れています。

三重県立看護大学とは、講師派遣などを通じて、当職員の人材育成に携わっていただいております。教育機関と臨床現場が、協働して人を育てる活動に参画できるよう尽力したいと思います。

（看護部長 松島 由実）



病院情報

社会医療法人 畿内会 岡波総合病院（大正11年2月19日開設）

- 病床数：335床（一般275床、回復期リハビリテーション病棟50床、ICU10床）
人工透析20床
- 併設施設：介護老人保健施設350床、訪問看護ステーション、訪問リハビリステーション、デイセンター、
居宅介護支援事業所
- 診療科目：20科
内科、循環器内科、心臓血管外科、婦人科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、
泌尿器科、皮膚科、小児科、肛門科、消化器内科、呼吸器科、脳神経内科、歯科口腔外科、放射線科、
リハビリテーション科
- 職員数：職員数 620人（うち看護師210人）

藤田医科大学七栗記念病院と連携協力協定を締結

6月22日（木）、本学と学校法人藤田学園 藤田医科大学七栗記念病院は、臨床能力に優れた質の高い看護職者の教育・育成について連携協力を図るために協定を締結しました。

協定では、病院職員の教育・研修等への本学教員の派遣などによる支援や、大学教員の臨床能力の向上を図るための研修派遣、学生の臨地実習の受け入れのほか「がん看護」や「リハビリテーション看護」など七栗記念病院の特徴ある分野での連携も含めて取り組んでいくこととしています。

本学における病院との連携協力協定の締結は13病院目となります。大学病院との協定締結は初めてとなり、新たな連携にも取り組んでいきたいと考えており、双方の教育・研究の一層の向上が期待されます。





第1回公開講座



7月1日(土)、谷口清州氏(独立行政法人国立病院機構三重病院 病院長)を講師にお招きし、「人類と感染症の闘い〜パンデミックの歴史〜」をテーマに、公開講座を開催しました。講演では、人類がこれまでに経験した感染症のパンデミックと対策の歴史、さらにはその歴史的な事実に基づきながら、今後のコロナウイルス感染症との付き合い方などについてお話いただきました。参加者の皆様からは、「人、動物、環境の関連性がよくわかった」、「人類とウイルスについて考えが大きく変わった」などの感想があり、大変ご好評いただきました。当日は、133名の県民の皆さまにご参加いただきました。

第2回公開講座のお知らせ

日時 令和5年10月28日(土) 13:10～14:40
場所 三重県立看護大学 講堂
講師 玉置 妙憂 氏
 (非営利一般社団法人 大慈学苑 代表/看護師・看護教員・ケアマネージャー・スピリチュアルケア師・僧侶)
講演 「心おだやかに生きるために」
定員 先着 300名 ※定員に達した場合、当日受付はありません。
申込期間 9月25日(月)～10月25日(水)
申込方法 右記のQRコードまたは電話・FAXのいずれかでお申込ください。
電話・FAX 059-233-5610 (地域交流センター)



講座の詳細につきましては、9月中旬ごろより本学ホームページにてご確認くださいませ。皆様のご参加をお待ちしております。

「卒業生のきずなプロジェクト」第1回茶話会

本学では、卒業生と大学とのつながりを大切にし、同窓会との連携や卒業生相互の情報共有、キャリアディベロップメント支援等を行っています。「卒業生のきずなプロジェクト」では、卒業生が看護職者としての責務を継続して果たせるよう、様々な相談に答え、卒業生が仕事の悩みを共有できる場を提供し、燃え尽きおよび離職の防止を図っています。今年度第1回の茶話会は、夢緑祭と同日の7月9日(日)に対面で開催しました。県内外で活躍している卒後1年目の26名の卒業生が参加し、夢緑祭のイベントを楽しみつつ、就職してから喜びや悩みの体験を共有し、とても充実した時間になりました。



就職説明会・就活講座

7月12日(水)、就職説明会を開催し、三重県内32の医療機関・行政機関に参加いただきました。各機関のブースに学生が訪問し、病院紹介や質問に答えていただくなど、就職活動の貴重な機会となりました。

また、同日、外部講師を迎え就活講座を開催しました。『就活スタートアップ講座』と題し、これから就職活動を始める2・3年生に向けて、自分に合う病院の探し方や情報収集のポイントなどを講義していただきました。



高校生のための看護職キャリアデザイン講座 一日みかんだい生

8月8日(火)・9日(水)、高校生のための看護職キャリアデザイン講座「一日みかんだい生」を開催しました。この講座は、看護職をめざす高校生を対象とし、看護職経験者による講義やワークショップを通して、自身の看護職者としての適性や将来のキャリア形成について考えていただくものです。今年度は定員を超える多くの申し込みをいただいたため、抽選を行い、2日間で108名の方に参加いただきました。



生きる力を支える医療へ



回復期リハビリテーションや、緩和ケアを中心とした専門性の高い大学病院です。
詳細はホームページでご確認ください。 <https://nanakuri.fujita-hu.ac.jp>



藤田医科大学 七栗記念病院
FUJITA HEALTH UNIVERSITY NANAKURI MEMORIAL HOSPITAL

〒514-1295 三重県津市大鳥町424番地 1
TEL:059-252-1555 FAX:059-252-1383



広告



独立行政法人 鈴鹿病院
National Hospital Organization Suzuka National Hospital



**神経難病、筋ジストロフィー
重症心身障害児(者)の医療
を提供しています。**




**心に寄り添い患者さんを幸せにする看護を
一緒に目指しませんか。**



広告


**さらなる発展と人材育成の充実に向けて
～学生支援のための基金への寄付のお願い～**

令和5年度も、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、進学の目的及び意志が明確であるにもかかわらず経済的理由により進学が困難な学生を対象とした返還の必要のない入学時奨学給付金「みかん大進学支援給付金」制度を新1年生に周知しました。

今後も継続的な修学支援を行いたいと考えておりますので、引き続き、本基金へのご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

寄付申出書によるご寄付のお礼

令和5年4～6月の間に4名の方々から合計60,000円を頂戴いたしましたこと、心より御礼申し上げます。



ふるさと納税制度によるご寄付は、上記QRコードからお申込み願います。




本学マスコットキャラクター
「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

**公立大学法人
三重県立看護大学**

〒514-0116
三重県津市夢が丘1丁目1番地1
TEL 059-233-5600(代)
FAX 059-233-5666
<https://www.mcn.ac.jp/>




本学は、「大学基準協会」の定める大学基準及び「日本看護学教育評価機構」の看護学教育評価において「適合」の認定を受け、大学及び看護学教育の質について保証されています。



広告